



～文化の風が吹くまち ちくしの～

文化薫道



◆其の七十

鬼は外「鬼堺」

新たな疫病が猛威を振るい、収束の兆しが見えない昨今、空前の「鬼」ブームが到来しています。この「鬼」とは、一体何を意味するのでしょうか。歴史をひも解くと、古代以降、大和の朝廷に従わない人びと、形のないもの、「病」の原因や死に関連するものなどを「鬼」と表現し始めたようです。

古代の都である平城京では、「みやこ」の内と外を分ける南大門（＝羅城門）付近で、外側からやってくる疫病神（＝鬼）の進入を防ぐ水際対策の儀式が行われていました。

筑紫野市内には、この儀式を思わせるような地名「鬼堺」があります。その場所は、平城京を縮小してつくられた古代大宰府の碁盤目の街並み（条坊）の羅城門の推定地と、郊外（街並みの外）の境目にあたります。



鬼堺の位置

いつの頃からかは分かりませんが、平城京のように内と外の境界という認識で、この場所が「鬼堺」という名で呼ばれるようになったのではないのでしょうか。

自分たちの力が及ばないものを恐れ、内に入り込まないようにしたいという当時の人々の願いは、今の私たちに通じるところがあります。一日も早い疫病の収束を願わずにいられます。

関文化財課



筑紫野市フェイスブック

<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター

<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント

<https://lin.ee/6X9wMoy>